

《担当者名》○西郷 達雄 関口 真有 河村 麻果

【概要】

臨床心理学的援助場面における基本的な態度、姿勢、および援助技法等を体験的に学習する。専門的な知識を学びながら、心の専門家としての対人援助の在り方について学習する。

【学修目標】

社会の様々な分野における臨床心理学的援助の基本的な態度を理解し、知識および技術を修得する。
社会の発展に伴ない心の問題にかかわる専門的な知識や技能の維持向上を図る能力を獲得する。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1・2	動機づけ面接法とは	動機づけ面接法の基本的発想、意義を学習する。面接場面でおきるコミュニケーションエラーについて、事例や演習を通して体験的に学ぶ。	河村 麻果 関口 真有
3・4	動機づけ面接法 ～チェンジトークと維持トーク	クライアントのチェンジトークと維持トークを理解し、識別できるようになる。	河村 麻果 関口 真有
5・6	動機づけ面接法 ～動機づけ面接のスピリット	動機づけ面接法の基本となる4つのスピリットについて学習する。事例や演習を通して動機づけ面接のプロセスを体験的に学ぶ。	河村 麻果 関口 真有
7・8	動機づけ面接法 ～基本戦略(OARS)	動機づけ面接法の基本戦略の基本的発想、意義について学習する。特に、「開かれた質問(Open question)」、「是認(Affirming)」に焦点をあて、事例や演習を通して体験的に学ぶ。	河村 麻果 関口 真有
9・10	動機づけ面接法 ～基本戦略(OARS)	動機づけ面接法の基本的戦略の基本的発想、意義について学習する。特に、「聞き返し(Reflecting)」、「要約(Summarizing)」に焦点をあて、事例や演習を通して体験的に学ぶ。	河村 麻果 関口 真有
11・12	動機づけ面接法 ～チェンジトークと維持トークに合わせてOARSを使いこなす	動機づけ面接法における「チェンジトーク」と「抵抗」の基本的発想、意義について学習する。OARSの使い方について体験的に学ぶ。	河村 麻果 関口 真有
13・14	動機づけ面接法 ～計画する段階への移行	行動変容に対する重要性和自信の関係について学ぶ。さらに、行動変容のための計画段階への移行で用いられる面接技法について事例や演習を通して体験的に学ぶ。	河村 麻果 関口 真有
15・16	動機づけ面接法 ～計画する段階への移行	情報提供(E-P-E)の基本的発想、意義について学習する。事例や演習を通して情報提供の具体的な進め方について体験的に学ぶ。	河村 麻果 関口 真有
17・18	対人援助における基本的な態度	対人援助における基本的な姿勢とその態度について学習する。対人援助におけるコミュニケーションスキルがメンタルヘルスの向上に対して、どのように寄与しているかを学習する。自己および他者を理解することの重要性和その意義について学習する。	西郷 達雄
19・20	積極的傾聴技法	対人援助における基本的な知識を学習する。積極的傾聴技法(Active Listen)について学生同士で体験学習し、レポートにまとめる。	西郷 達雄
21・22	積極的傾聴技法	レポートを用いて、会話分析を行う。聴き方およびその態度の改善点について自身で考察し、まとめる。	西郷 達雄
23・24	積極的傾聴技法	積極的傾聴技法 および で得られた体験をもとに学生同士で再度、積極的傾聴を実践する。体験から得られた情報をレポートにまとめる。	西郷 達雄

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
25・26	実践報告	プレゼンテーションについての基本を学習する。積極的傾聴技法から得られた結果をまとめ、グループ毎にプレゼンテーションの資料を作成する。	西郷 達雄
27・28	実践報告	実践報告会にてグループ毎に発表する。ディスカッションに参加する。	西郷 達雄
29・30	実践報告	実践報告会におけるプレゼンテーションの振り返りとそのまとめを行う。学んだことを、レポート・論文形式で書くためのポイントについて学習する。グループ毎に責任分担し、レポート・論文を作成するための最終計画を作成する。	西郷 達雄

【授業実施形態】

面接授業と遠隔授業の併用

授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による

【評価方法】

レポート課題（75％）、演習・発表（25％）

【教科書】

適宜プリントを配布する。

【参考書】

國分 康孝 カウンセリングの技法（1979）

國分 康孝 カウンセリングの理論（1981）

國分 康孝 カウンセリングの原理（1996）

石井 一成 ゼロからわかる大学生のためのレポート・論文の書き方（2011）

北田雅子 磯村 毅 「医療スタッフのための動機づけ面接法 逆引きMI学習帳」（2016）

【学修の準備】

毎回講義で使用したプリント、演習内容の復習を行なっておくこと。

各回で課されたワークを次回までに用意すること。

【ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）との関連】

本演習を通して、心の問題にかかわる職業人として必要な幅広い教養と専門的な知識を修得する。演習を通して体験的に臨床心理学的援助に関する姿勢や態度を身につける。社会や科学技術の進展に伴い自律的に学習する姿勢や態度を獲得させる、という臨床心理学科のディプロマ・ポリシーに適合している。

【実務経験】

公認心理師：西郷 達雄、河村 麻果、関口 真有

【実務経験を活かした教育内容】

臨床心理士・公認心理師として得られた臨床経験、研究成果、社会活動の成果を活かした教育を展開させる。